

実戦型橋梁実習

科目基礎情報

学校	徳山工業高等専門学校	開講年度	令和07年度（2025年度）
授業科目	実践型橋梁実習		
科目番号	1118	科目区分	専門/必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学習単位:2
開設学科	土木建築工学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	橋		
担当教員	海田 辰将、地域の方々		

到達目標

実在する橋を対象に、橋梁の点検から補修計画の策定、補修工事などのインフラメンテナンスを実践できる。

ルーブリック

評価項目	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
1. 橋梁点検	現地で測量などの様々な計測を実施し、損傷箇所の確認ができる	現地で測量を実施し、損傷箇所の確認ができる	現地で測量や、損傷箇所の確認ができない
2. 補修計画の策定	橋梁点検で見つけた損傷箇所に対して、適切な補修計画を立てることができる	橋梁点検で見つけた損傷箇所に対して、補修計画を立てることができる	橋梁点検で見つけた損傷箇所に対して、補修計画を立てることができない
3. 補修工事	補修計画をもとに実際に施工することができる	補修計画をもとに実際に施工することができなくもない	補修計画をもとに実際に施工することができない

学科の到達目標項目との関係

到達目標 B1 「実践力のある」技術者をめざすために、情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること

教育方法等

概要：

現在、座学で学んだ知識を実体験に落とし込む機会がなく、実践のイメージが付きにくい。

そこで実際の橋を使った実習を行うことで、座学で学んだことを実際に体験でき、将来即戦力となる技術者に必要な能力を修得できる。

本授業は今までの座学で学んだ知識を踏まえて実習を行い、橋梁点検、補修計画の策定、補修工事の方法を修得する。

授業の進め方・方法：

本実習は実際に橋に行き作業を行う外業と、補修計画を策定する内業に分かれている。

〈外業〉補修を行う際の事前調査、補修の実践

〈内業〉補修を行う際に必要な知識の習得、補修計画の策定

注意点：

最終成績は補修計画書（レポートなど）の評価＋外業に取り組む姿勢で決定する